

先天性内反足に対する Ponseti 法の治療成績

座長：大 関 寛

我が国では、内反足の保存療法を医師が自ら行う歴史があり、欧米の保存療法の成績よりはるかに良好な治療成績を上げてきた。一方、米国では Ponseti 法の長期成績の良さが認識され、保存療法が見直され、インターネットの普及により 2000 年ころから爆発的に広がった。Ponseti 法が世界的な潮流となる中、日本小児整形外科学会の研修会を通じ 2003 年頃から我が国でも Ponseti 法を取り入れる施設が増加し、現在は過半数の施設が本法を行っている。

本学会での報告は、いずれも Ponseti 法に忠実に従って追試しようとの努力が感じられた。重症度を初診時に Dimeglio 分類や Pirani 分類で分け、治療経過を X 線写真で追跡し、短期成績ではあるが、いずれも良好な成績をあげていた。しかし、変形の再発が少なからず起こっていることが報告され、装具の重要性が各演者から指摘された。このなかで坂本らが報告した Ponseti 法群と、従来の方法にアキレス腱の切腱を加えた群との比較は、特に興味深かった。後足部の矯正に両郡間の差が無い半面、前足部の矯正が Ponseti 法で優れていたとの指摘は、後足部に対する前足部の回内変形を早期に矯正する手技の優位性を明らかにしているものとする。

Ponseti 法の伝道者達は忠実な手技の実践を求めているが、私たちは医師であり科学者であるので、その手技がもつ医学的意味を十分理解する必要がある。軟骨で形成される新生児の足根骨は X 線写真に写らないものの、成人と同様の形状と運動メカニズムを持っている。足根骨のバイオメカニクスの理解無くして、良好な内反足の治療成績は期待できない。

良好な離陸と初期飛行をとげた我が国の Ponseti 法であるが、病因と病態に科学的な目を向け単なる手技の追従にならない努力を私たちは続けて行きたいものである。